

13	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14103018	再生医療を支援する生物応答調節剤の創製研究	橋本 祐一 (東京大学・分子細胞生物学研究所・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>本研究代表者らは「再生」を細胞の「分化、増殖、アポトーシスを3大メカニズムとして生ずる生理的現象」として捉え、今日の問題である癌、動脈硬化、糖尿等の多くの疾患は、再生に失敗したケースと考え、その正常化を促す生物応答調節剤の創製を研究の目的としてきた。その結果、ビタミンD3アンタゴニスト、前立腺がんにも有効な抗アンドロゲン、高脂血症等の標的である核内受容体FXRに対するアンタゴニスト等数多くの医薬リードが見いだされた。</p> <p>中間評価で再生医療を支援する生物応答調節剤の創製という大きな目標に対してチームとしていかにして達成していくかという点が重要と指摘されたが、これに対しては、医薬リードを創製し、最終目的として生きている生命体を解析する技術を開発することと研究方針を軌道修正した。この修正は最初掲げた目標が大きいため当然のこととはいえ、やや疑問が残る。個々の研究者の成果は恐らく高いレベルにあると思われ、発表論文もインパクトファクターの高い雑誌に掲載されている。しかしチームとして研究目標を達成すると言う点から考えると必ずしも充分ではない。</p>				
14	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14104009	オレキシンによる摂食および睡眠・覚醒の制御機構の解明	後藤 勝年 (筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>オレキシンによる睡眠・覚醒の制御機構の解明に著しい研究成果が認められる。オレキシン KOマウス、そのレセプターの KO マウスは、睡眠・覚醒研究のモデル動物として睡眠研究に今後も大きな貢献をするものと思われる。</p> <p>一方では、オレキシン類似作用をもつ化合物や拮抗剤の開発、オレキシンによる摂食調節機構や視床下部の遺伝子発現パターンに及ぼすオレキシン神経細胞の役割などには、あまり進展が見られなかった。</p>				